



第8回 市民ボランティア交流まつり



昨年初めてボランティア交流まつりに参加しました。驚いたのはその参加団体の数の多さです。ヒロロの3階を埋め尽くす程にボランティア活動は多岐に渡るものなのだと感動を覚えました。ボランティア活動を行っている団体全てに、共通していることは何だろうと今でも考えることがあります。

答えは無いのかもしれませんが、私は「活動や目指す形は違ってても少しでも自分達の暮らす環境や世界をより良いものにしていこう」という思いではないかと思うのです。ボランティア活動は奉仕活動の一端を担ってはいますが、決して「～してあげる」という押し付けではありません。ボランティア活動を通じて「自分が学ぶ」という基礎が根底にあります。ボランティア交流まつりで得られる出会いは一期一会です。ボランティア活動が人と人とを繋ぐ架け橋になれるのだということ学びました。思えば筆者である私がこのふくろう通心に携わるきっかけになったのもこのボランティア交流まつりでした。

今後もボランティア活動が持つ秘めた可能性を信じて記事を書き続けたいと思います。



ボランティアスタッフ：石岡佳樹



さる2月10日、ヒロロ3階ヒロロスクエアにて市民ボランティア交流まつりが開催されました。自分としては、大勢の参加があるボランティア団体同士の集まりというカテゴリのイベントは初めての参加となり、未知の体験。会場片付けのボランティアとしての参加ではありますが、勉強をさせてもらうべく会場を回らせていただきました。会場にはたくさんの団体が各ブースを広げており、記事や他イベントで各活動は目にしておりますが、地域にはこれほど多くの活動があるのだと改めて思いました。スタンプラリーも開催されており、指定のブースを回ってスタンプを集めることにより景品がもらえるもので、これによりスタンプを貰う際に各団体の活動や、地域のローカルな世間話まで出来て時間が足りないくらい。また、ステージでは楽器の演奏やフラダンス、子供向けのお話が行われ、多くの来場者が集まりステージを囲んでおりました。自分が思うボランティアの形とはまた違った形、持った技能での活動方法など特色があり、考えさせられる事もありました。

団体同士の交流という面も活発に行われているようで、自分に対しても興味を持って話しかけてきてくれる人もいて、一口にボランティアと言ってもさまざまな考え方が有るのだとまたひとつ勉強になる1日でした。

現状、自分で出来る範囲は些細なことではありますが、一つの活動として、いつかここに並ぶブースの方々と同じ肩を並べられるよう、一つ一つ積み上げていきたいと改めて決意を固くした次第であります。

そして終了後に片付けをする際にちょっといいなって思ったことが。片付けの際、今日会った初めての人ではあっても、協力して一つの事に向かい、成し遂げる良さは何よりの収穫だったように思います。

当日のスタッフの皆様、各団体の皆様ありがとうございました。ボランティアスタッフ：藤田祐平



「災害ボランティア活動 ～私たちにできること～」



1月25日弘前大学で開催された市民ボランティア講座「災害ボランティア活動～私たちにできること～」に参加してきました。

1部は、弘前大学OBの南部真人氏（現在小樽市役所勤務）が、大学時代に東日本大震災で被災した岩手県野田村での活動の経験を生かし「北海道胆振町地震のボランティア活動」の体験を講演。実際の現場では想定する以外の問題点もあるのだと現場での実状や気が付いた点を語った。2部ではブースに分かれて、ブース1では学校法人弘前城東学園弘前医療福祉大学救急救命研究会が人形を使って人工呼吸と心臓マッサージの体験と実物のAEDで使い方を説明。ブース2ではクイズとすごろくゲームで防災時の常識などを解説。その他緊急時に使う物品の展示もあり、非常食やランタン、被災時に便利な小物等を展示していました。ブース3では災害時に役立つダンボールベットと仮設トイレの組み立てを体験。その他キッチンペーパーと輪ゴムでマスクを作る方法や新聞紙を使ったスリッパを紹介。ブース内で紹介されるものは情報としては知っていても、実際に作ったり使ったりしたことは無いものが多く、大変勉強になり貴重な体験をさせてもらえた時間でありました。

ボランティアスタッフ：藤田祐平



「一日体験ボランティア」に参加して

今回、私は「一日体験ボランティア～ケア帽子のお手伝い～」に参加しました。今、学校で、探究活動というものを行っています。自分が調べたことで誰かのためになるような行動をしてみようという活動です。何をやるか悩んでいるときに、このポスターを見つけました。私はもともと医療のことについて調べたいと思っていたので、これだと思って参加しました。

いざ一日体験ボランティアに行ってみると、おばあちゃんばかりで（若い人もいましたが）びっくりしました。おばあちゃんたちに負けないように必死でケア帽子を作りましたが、いつも裁縫をしていない私にとってはとても難しかったです。でも、縫い方から全て優しく教えてくれたおかげでなんとか完成することができました。本当に良かったです。ケア帽子を作っているときに、ケア帽子の普及を進める「わた帽子の会」の赤石敏子さんが、ケア帽子を寄付した患者さんのホッとした顔を見れるのが一番嬉しいと言っていました。患者さんのために、自分から積極的にボランティアを始めた赤石敏子さんはかっこいいと思いました。

今回の体験で、私はケア帽子の作り方がもっとたくさんの人に広まってほしいと思いました。そのためにも私のような若者が積極的にボランティアに参加し、大切な技術を伝え続ける必要があると思いました。たくさんの方が笑顔になれるようにまたボランティアに参加したいです。

弘前中央高校 一年 秋元 未帆

豆知識 番外編

脳トレ



「脳を元気にする東奥日報音読教室」に参加しました。大切なことは、1日5分でいいので毎日続けること、毎日新しい情報に触れること。これらの点で新聞が最適だとしています。

【音読】⇒ポイントは、できるだけ速く、内容を理解しながら正確に読むこと。脳の前頭前野が働きます。

【天気予報を使つての計算】⇒予想最高気温と予想最低気温を、できるだけ速く足し算や引き算をしていきます。簡単な計算でも脳が活性化するそうです。

【地図と地名の記憶】⇒県内40市町村の位置を覚えます。ニュースを見た時、繰り返し位置を思い出しましょう。

【見出し・単語の記憶】⇒記憶力を高めるポイントは、繰り返すこと、書くこと、連想記憶を意識することなどです。

※連想記憶＝視覚、聴覚、イメージさせる何かに絡めること。

「人生を楽しむために」毎日、楽しく脳トレ！
規則正しい生活、食事、睡眠が大前提です。



編集後記

日本は近年、地震、台風、大雨等、想定を超える大きな災害が多発しています。その災害の現場で活躍している多数のボランティアの人達を目にするたび、その勇気、行動力をすごいと感心していました。

縁あってふくろう通心に関わるようになり、目立たない所でボランティアをしている方々が多数いらっしゃることも知りました。

私にとってボランティアは未知の世界ですが、関わっているうちに見えてくるものがあるかもと思っています。

ボランティアスタッフ C・K



＜制作＞市民ボランティアスタッフ
＜制作協力＞弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内
TEL:38-5595 FAX:36-1822
HP: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。